

## 冬及び早春に沢山の青刈を得る

### えん麦とライ麦の栽培法

水田や畑の冬期休閑地を利用する裏作飼料栽培で、冬及び早春に豊富な青刈の得られるもの一つにエン麦とライ麦があります。

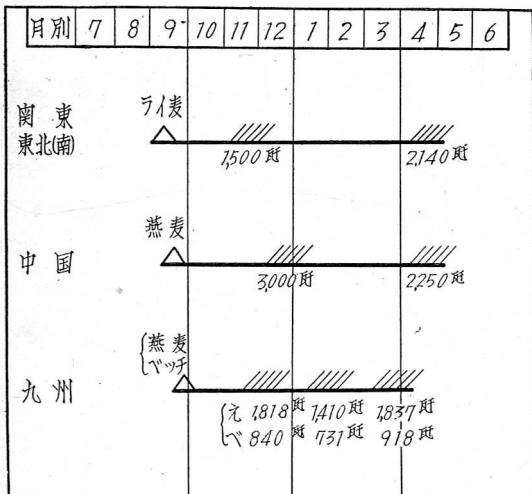
#### (一) 冬及び早春の青刈飼料は貴重品

冬期間の基礎飼料は根菜、乾草、埋草が主となりますが、どうしても生鮮多汁飼料が夏季に較べ不足勝ちとなります。ビタミンの補給に、また水分の補給に、消化の助長に効果のある青刈りはこの時期における貴重品ともいえましょう。

#### (二) 冬及び早春に青刈りを得る暖地の栽培法（青

##### 刈麦類の二、三度刈法)

暖地の青刈麦類栽培例



耐寒性に富み秋播型のライ麦は冬期間も極めて強健に生育を続けるので従来からも二~三度刈りが行われておりますが、春播型のエンバクを秋播きして利用する場合の二~三度刈りには可成りの無理が伴うことは当然であります。しかしながら心掛けたければ関東以西の地区では可成り安全なエン麦の二~三度刈りが出来ます。

(a) 早播きの場合にはシロ厳寒期前に一度刈取つた方がよい。茎葉が相当に伸長し、幼穂が形成されると寒さのために枯死しやすいので

十一月上旬頃に刈取ること（厳寒期の直前は不可）

(b) 厳寒期の二月頃の刈取りはやらないこと。

(c) 四月以降には赤鋸の発

播燕麦の栽培は望まれませんから、秋播き麦類といふと、耐寒多収なライ麦に限定されます。

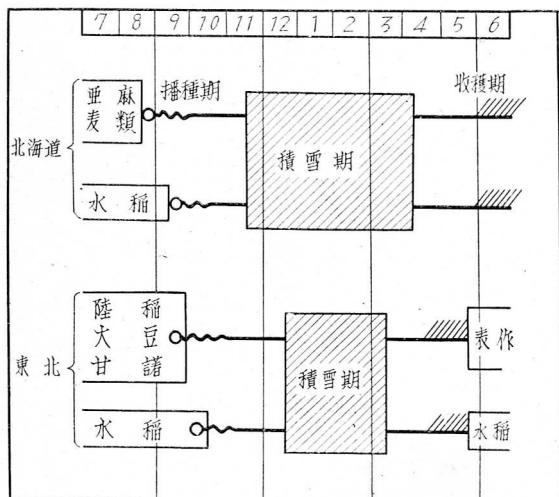
生があるから、その前に刈取ること。

(d) 刈取りの高さは厚播きの場合、或いは寒冷の時には高刈り（地上二三~一六釐）すること。

(e) 二~三度刈りは一度刈りに比べて根の発育が悪いから施肥の回数、量を多くすること。

二~三度刈の間隔は厳寒期を避けて一応茎葉の生育日数五〇~八〇日毎刈取りが、西南暖地における多収の方法であります。次に暖地の栽培期間と刈取時期を図示します。

北海道東北地方の青刈ライ麦栽培



東北の大部と北海道では現在の處安定した秋播燕麦の秋播き時期は北海道の中央部についてみますと九月上旬~十月上旬、また東北の南部では十月下旬頃迄という非常に広い幅をもつてありますから、水田、畑の裏作に広く取入れられる余地があり、しかも春は融雪後一月半で出穂を始め、刈取適期となり、最も春早くに青刈利用出来る作物でありますから、是非とも栽培したいものです。北海道や、東北での栽培法の一例を示しますと次の通りです。